

# 令和2年度 学校評価

加古川市立別府中学校

学校教育目標 「一人一人を大切にし 共に生きる心と力を育てる」  
めざす学校像 「みんなの瞳 輝く 学校」  
～挨拶・協力・感謝の実践化を通して～

<p>&lt;重点目標&gt;</p> <p>①知・徳・体をバランスよく育て、「自ら生きる力」を育む ②基礎的基本的な学力の定着をはかり、主体的に学び、考え表現する力を育てる ③生徒の主体的な活動の活性化をはかり、「共に生きる心と力」を育む ④いのちを大切に、人権を尊重する教育を推進する</p>		<p>⑤一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行う ⑥危機管理意識を高め、安全・安心な学校を創造する ⑦教職員としての指導力と資質向上に努め、よりよい組織形成をめざす ⑧地域から信頼される教育の環境づくりに取り組む</p>	
--	--	---	--

○評価基準

4:よい  
3:ややよい  
2:やや悪い  
1:悪い

評価指数とは (4×4の人数)+(3×3の人数)+(2×2の人数)+(1×1の人数)/合計人数 3.5以上で○、2.5～2.0で△、2.0未満を▲として表示 評価指数の平均値は2.5

領域	質問項目 (学校の自己評価アンケート)	評価指数					質問項目 (保護者・生徒アンケート)	評価指数					改善の方策	関係者評価		
		R2	R1	H30	H29	H28		R2	R1	H30	H29	H28				
学校生活全般	1 生徒のあいさつ	3.3	3.5	3.2	3.5	2.7	生 地域や学校で進んであいさつができた。	○	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	○学校経営方針の中で「挨拶・協力・感謝」の実践化を目指してきた。部活動や行事における実践は十分に意識しているが、地域や家庭での実践ができる人になれるように啓発を行う。 ○生徒は承認欲求があるのに、それを満たされないと自己有用感が醸成されない。周りの大人が十分に理解しながら子どもたちの成長を支援していくよう心掛けたい。	○心を病む先生も多いので、地域や保護者も先生方の心のサポートもできればと感じている。 ○学校生活が充実すればあいさつや協力が性が増してくる。一人一人目標を明確にしてあげるのが大人の役割である。 ○今年度は生徒の活動を見る機会がなく学校生活全般の様子はあまり把握できなかったが、多くの事案がある中で落ち着いた学校生活を送っているように思う。	
	2					保 自分から進んであいさつをしている。		3.2	3.1	3.1	3.1	3.0				
	3 生徒の協力性	3.1	3.3	3.3	3.1	2.8	生 係や班活動、行事などで級友と協力して取り組んだ	○	3.5	3.6	3.4	3.5	3.3			
	4					保 家庭の中で協力的		2.9	2.9	2.9	2.8	2.8				
	5 まわりへの感謝						生 周りの人に感謝している	○	3.6	3.6	3.5	3.4	3.4			
	6						生 学校生活は充実している	○	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4			
	7 学校生活での充実度	2.7	3.6	3.4	3.4	3.2	保 学校生活を充実感・満足感をもっている		3.2	3.2	3.1	3.1	3.0			
	8						保 学校は子どもが学習するのに適した環境である。		3.1	3.1	3.0	2.9	2.7			
学習(学力向上)	9 学習規律	○	3.6	3.5	3.6	3.4	2.7	生 ベルスタはできた		3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	○長期休業期間があったため教師も生徒も授業に対する意欲が高まっていた。学習効率も高かった。この新鮮な気持ちを大切にしなければならない。 ○思考力・判断力・表現力に課題がある。これは、入試を前提とした「知識・技能」の習得に力点を置いた「できる学力」に偏重してきたことによる。これからは、社会の一員としての「思考・判断・表現」を育成する教育を目指す必要がある。 ○授業の遅れを取り戻そうと急ぐのではなく、わかりやすく興味・湧く授業展開を目指してきた。「主体的に学習に取り組む態度」をどのように伸ばすかが課題であり「できる」「わかる」「楽しい」学習が大切である。	○タブレット導入など、学校現場では十分な研修等の準備がなされないままスタートすることになるが、教師の仕事量はさらに増えるのではないかと危惧する。 ○タブレット活用に関しては、生徒の方が詳しいこともあるのではないかと。先生の過度な負担にならないように、外部の人に委託するなど検討すべきである。 ○テストの点も大切であるが、内申点などの見える化を短期間に細かく行い、より意欲を高めて育てることが大切である。 ○コロナ禍における授業時数の確保だけでなく、授業が分かりやすいように工夫をして楽しい授業展開をしているのがあるが、長期休業で受験生や保護者にとっても不安が多かったと思うが、授業時数の確保ができていたのがよかった。
	10					生 準備物宿題提出物		2.9	2.9	2.9	2.8	2.8				
	11 基礎的な知識技能、学力の定着	2.6	2.8	2.7	2.7	2.5	生 授業はわかりやすかったか		3.1	3.0	2.9	3.0	2.8			
	12															
	13 思考力・判断力・表現力	2.5	2.6	2.6	2.5	2.2										
	14 ことばの力	2.8	2.7	2.5	2.3	2.1										
	15 家庭学習	2.8	2.6	2.8	2.8	2.4	生 家庭での学習時間は、3時間以上～30分以下		2.5	2.5	2.5	2.4	2.4			
	16						保 家庭学習の習慣が身についている		2.6	2.6	2.6	2.6	2.5			
17 教師の授業力向上	2.8	2.8	2.6	2.6	2.6											
18 個に応じた教育的支援	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	保 学習の様子や努力を適切に評価している		3.1	3.1	3.0	2.9	2.9				
人権・道徳	19 生徒の道徳性を養う	2.9	3.0	2.7	2.8	2.5	生 思いやりの心をもち、人を大切にしている	○	3.7	3.7	3.6	*	*	○「学校生活の心得」の中に「思いやりの心」(人の気持ちを考え、気配りや気づかいをする)という項目がある。思いやりの心を持ち、人を大切にできているかと自問自答することを習慣づけた。 ○みかしお学級については、コロナ禍において実施回数や内容が大きく変化した。参加生徒数の減少が大きな課題であり、どうすれば多くの生徒が主体的に参加できるか検討しなければならない。	○コロナ禍で、何かが起これば、何かを言ったりやろうみたいな風潮があるが、道徳・人権学習につながっていくこととして捉えていくことも必要である。 ○人権や道徳などは親世代の勉強も大切だと感じる。 ○自分自身や人を大切にするという心の授業は何よりも大切である。 ○思いやりや気配りの醸成や人権学習に取り組む中でワークショップやディスカッションを取り入れて自ら考え、自ら話し、共感や気づきを促す学習が必要だと考える。	
	20					保 思いやりの心をもち、人を大切にしている		3.4	3.4	3.3	*	*				
	21 生徒の同和教育への知識理解度	2.6	2.5	2.5	2.4	2.3										
	22 人権・道徳の授業力	2.7	2.8	2.6	2.5	*										
	23 計画からの実施状況	2.8	3.0	2.6	2.7	2.6										
	24 みかしお学級での活動	▲	1.9	3.1	2.8	2.9	2.5									
特別活動	25 行事、生徒会活動	3.2	3.5	3.2	3.2	2.9	生 委員、係の活動に積極的に取り組んだ		3.4	3.5	3.3	3.3	3.2	○「モチベーションを高める」と「安全な実施」とのバランスを保つ。 ○活動の「目的」を確認し「時間」「場所」「人数」「方法」の基準を作る。	○1日だけのトライやる・デーは、書面決済で終わり、成果など検証する場がなかった。 ○行事等を実施できない中にも多くの工夫をされたことに感謝する。	
	26 部活動を通しての成長	3.2	3.1	3.1	3.2	3.0										
生徒指導	27 生徒の服装・頭髪の乱れ	○	3.5	3.6	3.4	3.2	2.4							○「いじめの解決の方策」に関しては甘いと感じる。過保護だと社会に出たときに大丈夫か心配である。大人が支援をしすぎて、子ども達が自分の力で解決できるチャンスを奪っていないか分る、自己解決のスキルを身につかせなければならぬ。 ○校則を考える時に社会人になったときにTPOをわきまえた服装や行動がとれる人となるよう生徒の主体性を育む取組をしていくことが大切である。		
	28 生徒の服装・頭髪以外の生活ルール	3.2	3.3	3.2	3.1	2.4	生 ルールを守って生活した	○	3.7	3.6	3.6	3.5	3.4			
	29 生徒指導力の向上	2.9	2.8	2.6	2.6	*										
	30 教師間の共通理解や指導の方向性	3.1	3.2	2.9	3.1	2.6										
	31 学年間の連携	3.0	3.1	2.9	2.9	2.6										
家庭・地域との連携	32						保 現状や取り組みを、便りやホームページなどでわかりやすく伝えている。		3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	○地域に顔見知りの大人が一人でも多くなるようなつながりの持てる活動を増やせるように一緒に工夫していけたらと思う。 ○学校運営をしていると多くの問題事案が発生すると思うが、適宜丁寧な話をしてもらっているので地域としては感謝している。 ○地域にある学校ではなく、地域の中の学校を目指す上でもコロナ禍においても相互に顔の見える関係作りが必要である。		
	33						保 学校をよく知ってもらうために、参観できる機会を適切に設けている。		2.6	3.2	3.2	3.0	3.0			
	34 PTA、地域、ユニットなどの取り組み	2.7	3.3	3.1	3.2	2.9	保 学校行事にできるだけ参加している		3.2	3.3	3.3	3.2	3.2			
	35						保 子どものことについて、気軽に相談することができる。		3.0	3.0	2.8	2.7	2.7			
	36						保 地域や保護者の意見に丁寧に対応している		3.2	3.2	3.0	2.7	2.7			
学校運営	37 学校目標の明確さ	3.0	3.1	3.1	3.1	2.9								○学校の組織的な対応に向け週1回の主任会を実施し、企画委員会や職員会を行うまでに協議することができた。しかし、コンスタントに実施できなかったため、来年度は時間割等の調整も含めて検討していく。 ○一人一人の危機管理意識の醸成が大切である。ケーススタディ等を行い対応力の高い教師集団を目指す。 ○信頼される学校づくりに向けて数多くの職員研修をしているものの「研修のための研修」になってしまっているのかもしれない。職員の興味関心のある研修が必要である。	○会議にける時間をできるだけ短くして、子どもたちに接する時間を多く作ってほしい。 ○いろいろな事案が発生したが、「生徒のために」ということを考え対応していたので全体として上手く進んでいると思う。 ○学校として困っていることがあれば、学校運営委員会として意見陳述や要望を出していく。学校と一緒に考えて子どものために、より良い方向に向かうよう、方法を考えていきたい。 ○研修において気づきや学びを共有する環境づくりが重要であり、教職員の興味関心や主体的な参加ができる研修を実施していただきたい。	
	38 学校としての組織的な活動	3.1	3.1	2.9	3.0	2.8										
	39 勤務時間の適正化・業務改善	2.5	2.5	2.4	2.3	2.2										
	40 設備施設の改善	2.8	3.1	2.6	2.6	2.6										
	41 報告連絡相談などの連携体制	3.1	3.1	3.0	3.1	2.8										
	42 危機管理対応	2.7	2.9	2.8	2.9	2.6										
	43 研修の充実度	2.9	3.1	2.8	2.9	2.8										